



【編集】
富山国際大学
現代社会学部

富山国際大学

東黒牧ニュース

Toyama University of International Studies

中国・異文化研修で学んだこと



8月26日から9月2日までの8日間、中国異文化研修に行きました。去年まで中国に行くとは全く想像していませんでした。人生初の海外は勇気が必要であったり、心配もあったりと決心することを迷っていました。そんな私に先生

は、「互いの違いを認め、自分の表現力を持てる人間になってほしい」と話されました。その時、気付きました。テレビやマスコミ、人の噂話だけで他国を非難してはいけないということ。私はその言葉で決心し、研修に望む目的を定めました。私は授業で中国語を選択しています。4月から始めたばかりであり話すことは出来ませんが、現在持っている力を中国で試したいという思いがありました。また、富山国際大学に入学したので在学中に海外に行く機会を逃したくないと思いました。

当日、富山空港から中国東方航空の飛行機に乗りました。座席シートの中国語を見て今から海外へ行くのだと実感が湧いてきました。上海に到着すると、飛び交う言葉、看板はもちろん中国語ばかりです。研修の8日間のうち、4日目は日本と連絡がとれない寂しさからホームシックになりました。研修中で一番印象的だったのは研修のメインである、南通大学の学生たちとの交流会と講座です。日本人のメンバーは、日本を含め、富山県の魅力を伝えました。私は日本食についてプレゼンをしました。そこで私は驚いたことがあります。それは、学生たちが興味深く、スライドの内容に応じてくれた場面でした。その姿を見て、自己紹介で緊張していた私のモヤモヤは一気に消えました。学生たちは、日本人の私以上に素晴らしい日本語力でした。日本語学科ということもありますが、「日本を愛している」という思いが伝わってきました。そして交流会の定番曲「朋友」と「涙そうそう」を歌いました。研修の8日間は、あっという間です。8日間のうちに言葉の壁を乗り越える勇気を得ました。これから海外に行こうとする人たちにこの言葉を贈りたいと思います。「壁をどうやって登るかは自分次第。その答えを知るには実際に現地に行って体験することです」。これを機に、自分にとってプラスになることは、全て積極的に取り組みたいです。



(文：現代社会学部1年 谷口彩花)